

令和7年度 茨田中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等2年チャレンジテスト
〈成果と課題〉

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 茨田中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	241	52	45	6.3	11.9	学校	508
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	242	66.7	55.1	55.6	46.4	55.4	5.6	5.6	11.2	8.5	7.2
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
9月3日	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	—	65.0	39.0	53.0	44.2	55.7	7.0	7.0	12.3	5.4	7.7
	大阪市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1月14日	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	—	63.5	60.2	55.7	58.5	64.6	9.0	3.5	8.5	2.9	5.2
	大阪市	—	—	58.3	—	63.0	—	—	3.0	—	3.3	—
1月14日	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※

※

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
3年	学校	241	118.9	111.7	147.1	102.8
10月21日	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	235										
2年 男子	学校	26.63	25.13	42.20	48.79	73.52		8.07	203.81	20.70	42.02
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	20.48	22.79	46.62	46.30	51.65		8.78	169.14	13.88	48.71
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 茨田中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

1年チャレンジテスト

(成果と課題)

【国語】国語科のテストにおいては、大阪府平均63.1点に対して、本校平均63.5点と、0.4点上回った。学習指導要領の領域等別平均点では、「書くこと」「話すこと・聞くこと」「情報の扱い方に関する事項」について、大阪府平均を上回ることができた。特に、「書くこと」の領域では大阪府平均60.2に対して本校平均63.1と高く、本校国語科で学習指導目標としている「書くこと」の力をつけていることがわかる。無解答率についても、大阪府の無解答率10.2に対して本校の無解答率は9.0と低く、日頃から粘り強く学習に取り組んできた成果であると考えられる。古文にかかわる設問では、大阪府平均56.3・本校平均56.0とともに低い。特に、場面の展開や内容の理解にかかわる問題の本校正答率が31.3,49.8と低く、課題である。漢字の書き取りが3問あったが、本校正答率が59.0,38.2,40.6と低くこれも課題である。

【社会】成果として過去2年平均正答率、観点別正答率の項目において、大阪市平均を上回ることができていなかったが、今年度、知識・理解、思考・判断・表現の観点別正答率で大阪市の平均よりも約2ポイント上回ることができ、平均正答率も大阪市の平均より1.9ポイント上回ることができた。また、正答率において0%～10%の項目は、1人もいなかったこと、記述形式の平均正答率においても大阪市平均を約4ポイント上回っているため、粘り強く頑張ったと分析できる。

課題として、今年度、さまざまな観点で大阪市平均を上回ることができたが、解答形式の短答の分類については、大阪市の平均を少し下回る結果となった。もう一つは、正答率度数分布において、正答率が70%～90%において、市平均を上回っているが、100%の正答率が0だったこと、正答率20%～30%の項目が大阪市平均よりも上回ったことが課題として考えられる。

【数学】茨田中学校の1年数学平均は55.7点で、大阪府平均に比べ、-1点であった。内容の内訳は、「図形」の領域が大阪府平均に比べ、0.3点高かった。また、無解答率は大阪府平均に比べ0.3ポイント低い。課題としては、「数と式」、「関数」の領域が大阪府平均に比べ、それぞれ0.6点低い。今回の結果のヒストグラムの分布が、二極化や正規分布をせず、波状になっている。学力の層がまんべんなく散らばっていることを表している。よって、それぞれの学力に応じた学習が必要である。

【理科】平均正答率の大阪市平均は0.93であった。単元別で比較すると、平均正答率はほとんどの単元で大阪市平均を超えているが、「光の性質」のみ0.95と、大阪市平均を下回った。観点別正答率は、「思考・判断・表現」の項目で大きく下回っている。

【英語】茨田中学校の1年英語の平均は64.6点で、大阪府平均に比べ0.99点下回っている。領域別では「聞くこと」が1.02点上回っているが、「読むこと」が0.99点、「書くこと」が0.95点それぞれ下回っている。また、無解答率が5.2%で、大阪府平均より1.6ポイント高くなっている。特に長文を「読むこと」と英語を「書くこと」に対する苦手意識が課題である。また、今回の結果グラフによると、英語が得意な生徒と苦手な生徒の二極化が進んでおり、これも課題である。

(今後に向けて)

【国語】今後もスモールステップの課題や小テストなどを実施し、基礎基本を大切に。また、学習指導要領各内容の力をバランスよく身に付け、あきらめずに課題に向き合い、考えようとする力を養う。「書くこと」においては、府平均よりは高かったものの、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるという問いの正答率が17.1と非常に低かった。そこで、読み手を意識し、表現を工夫して文章を書く学習を今後は増やしたい。古文については、古文に慣れ親しむ機会を増やすことや、登場人物の描写や関係などに着目した丁寧な指導を行い、内容理解力を育成する。

【社会】本年度の社会科の授業では、資料から読み取り、自分の考えを書くような機会を増やし、ほぼ毎時間資料読み取りを行っている。さらには、地理、歴史、両方の分野で、単元を貫く問いを設定し、毎時間振り返りを行うことで、「書く(記述する)」ことへの抵抗感を減らすことができた。課題の1つ目の短答の項目において、大阪市平均を下回っていることについては、知識が定着していないということが考えられるため、小テストの導入や振り返りの時間を定期的に設け、知識の定着に努めていく。課題の2つ目の10点～20点に集中していることに関しては、ペアやグループ、全体での意見共有、協働学習を続けることで、社会科が得意な生徒も、苦手な生徒も一緒に学習して、10点～20点層を上げていけるよう取り組み、すべての項目で大阪市平均を上回ることができるよう努めていく。

【数学】テスト結果を振り返り、自分の課題に合わせて取り組む機会を設ける。「数と式」分野は、すべての単元の基盤となる知識である。重点的に、より丁寧に時間をかけて学習に取り組ませる。また、「学力に課題がある」グループの底上げとして、問題演習時に習熟度別の問題を用意したり、習熟度別少人数授業を行い、生徒の実状に応じた指導で基礎学力の向上を図る。

【理科】学力の二極化がみられるので、それぞれ単元ごとに小テストを実施し、生徒の理解状況を確認していく必要がある。「光の性質」については、作図問題に苦手意識を持っている生徒も確認できたので、演習の時間をとっていく必要がある。

【英語】「読むこと」「書くこと」とともに、より集中して、粘り強く取り組ませたい。そのために、学習者の興味関心を引き出すような発問の内容などを工夫していく。また、学習者が達成感を感じながら学習をすすめられるように、スモールステップでのとりくみや一人ひとりのフィードバックの機会を増やし、よりきめ細かな指導に努めたい。また、英語が苦手な生徒のフォローをしっかりとるように努めたい。

令和7年度 茨田中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

2年チャレンジテスト

(成果と課題)

【国語】今年度のチャレンジテスト(国語)の結果、本校2年生は65.0ポイントという結果であった。大阪府平均が64.5ポイントのため若干上回る結果となった。昨年度は対大阪府平均-0.2ポイントであったため前年度より少し伸びることができた。観点別で見ると「知識・技能」が34.4ポイントで大阪府平均より0.3ポイント上であった。「思考・判断・表現」は47.1ポイントで大阪府平均より0.6ポイント上であった。課題として大阪府平均よりどの観点も若干上回っているもののこの分野がきちんとできているというものはない状態であった。特に基礎的な分野で「言葉の特徴や使い方」に関しては大阪府平均を0.1ポイント下回っているのがこの分野が課題である。

【社会】本年度は、過去2年間の実績(府平均を超える)から一転し、全観点で府平均を下回った。特に「知識・技能」の急落(-12.6点)と無回答率の増加(7.0%)が深刻な課題である。音読やICT活用、発表活動などの「動的」な学習を重視した反面、以下の「静的」な学習が不足した。書く作業の量:調べ学習や対話が増えた分、語句を書き、定着させる作業時間が減少した。定着の精度:進捗確保を優先したため、一斉授業で丁寧に教え込む「知識の核」を作る時間の不足。無回答の増加:資料を読み解く「演習量」の不足。

【数学】今年度の本校2年生の数学平均は53.0点で、大阪府平均の55.0点を下回る結果となった。特に課題として挙げられるのは、記述形式の問題における対府平均比が0.67と大きく差がついた点である。記述問題では、考え方を筋道立てて説明する力や、条件を整理しながら解法を選択する力が求められるが、十分に発揮することができなかつたと考えられる。また、府平均を120%以上上回る高得点層の割合が対府平均比0.84となり、上位層の育成にも課題が見られた。一方で70%未満の層の割合は対府平均比0.90となり、一定の基礎力を身につけている生徒が多いという成果も見られた。これらをふまえ、次年度は記述力の強化とともに、さらなる理解の深化を図る指導が求められる。

【理科】2年生理科において、本校の平均による対大阪府比は1.04と、大阪府平均より2.2ポイント上回った。普段から実験、観察を授業の中で取り組んでいる成果が見られる。「地球」分野は、大阪府平均とほぼ変わらなかったが、「生命」「化学」分野は大阪府平均を上回った。無回答率については、大阪府平均よりもよく、0.7ポイントの差があった。生徒質問紙においても「難しいことがあっても、あきらめない。」では、肯定的な回答が大阪府平均よりも5.7ポイント高かった。

【英語】2年英語科のチャレンジテストは、合計で大阪府平均を3.9ポイント上回り、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域別においても大阪府平均をやや上回る結果となった。日頃から自作のワークシートを活用し、英問英答や、ある程度まとまりのある文章の概要を捉える活動を行ってきた。そして、どの領域も満遍なく取り組んだ成果が結果として表れたと考える。ただ、「書くこと」に関しては、無回答率が昨年度より上がっていることが課題として見られる。

(今後に向けて)

【国語】大阪府平均より若干上ではあったものの、この分野はよりできているというものもない結果であった。日々の授業の中で基礎的な言語事項(漢字や語彙)を豊かにしていくことをしていく。またICTを活用し、他者の意見を取り入れよりよい合意形成を図り、考えを深めていけるよう「主体的・対話的で深い学び」の実践を継続していくことで学力向上に努める。

【社会】「書く」活動の復権:個々の生徒が自分の手で知識を体系化する機会の確保。「問い」「まとめ」の徹底:授業の出口で必ず「単元を貫く問い」に対する自分の考えを書かせ、記述力と無回答率の改善を図る。バランスの良いICT活用:タブレットは調べるだけでなく、他の効率的な使用法を検討し、実践する。

【数学】今後は、記述問題への対応力を高めるため、解法の根拠を段階的に書かせる活動を取り入れる。また、基礎事項の定着を図るため、短時間で取り組める小テストを継続し、誤答の分析を授業に反映させる。さらに、思考を深めるための課題づくりや発表の機会を充実させ、学力向上につなげていきたい。

【理科】「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに問題で一部大阪府平均を下回っている問題があるため、引き続き、自分の考えを整理したり、まとめる機会を増やしていく必要がある。問題解決にあたって、粘り強く取り組んでいく姿勢を身につけさせなければならない。

【英語】聞くこと、読むことにおいては引き続き集中して、粘り強く取り組ませたい。そのために難易度に合わせて、注目させたいポイントを提示しながら進めていき、英語を苦手としている生徒も粘り強く取り組めるような工夫を行ってきたい。また「書くこと」に関しては単元内に既習文法を用いて、自分の考えや思いを表現する時間を設け、慣れていくことに努めたい。その上 復習の時間を設け、一人ひとりがフィードバックできるようなきめ細やかな指導を行ってきたい。

令和7年度 茨田中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

GTECの結果をふまえて

【成果と課題】

全体としては、前年度を約11点上回っている。詳細は、リーディング、リスニング、ライティングが前年度を上回っているが、スピーキングは下回っている。リーディングに関しては、簡単な文章の大まかな流れを理解する力についてはついてきている。これは、継続的に進めている音読などのペア活動などの練習の成果と思われる。課題としては、具体的に情報のつながりを読み取る力をつける必要がある。

リスニングに関しては、なじみのある表現において必要な情報を聞き取る力はある程度ついてきている。これは、教科書や「読みトレ」を扱う際、本文を見ずに、まずは音声を聞かせて概要を捉えさせる活動を続けてきた成果と思われる。課題としては、英文を聞いて「意味のまとめ」ごとに区切り、状況をイメージして全体の意味をとらえる力をつける必要がある。

ライティングに関しては、基本的な英文をつなげて短い文章を書く力についてはついてきている。これは、初めから語彙文法の間違いを指摘しすぎることは避け、生徒が書くことに慣れてきてから、多く見られる語彙文法の間違いを取り上げ、正確さを指導してきた成果と思われる。課題としては、文と文の意味のつながりを意識して、ある程度長い文章を書く力をつける必要がある。

スピーキングに関しては、基本的な語や言い回しを使って、日常のやりとりにおいて単純に回答する力についてはついてきている。これは、ペアや小グループで、即興で1、2分程度の対話活動をさせる活動を続けてきた成果と思われる。課題としては、より聞き手を意識しながら話す内容を増やし、複数の文で自分の考えを伝える力をつける必要がある。

【今後に向けて】

リーディングに関しては、の文が前の文と対比されていたり、具体例になっているなど段落内での文と文の関係を把握した上で、段落ごとに伝えたいメッセージをとらえるワークを可能な限り行っていく。

リスニングに関しては、まとめごとにポーズを置いて状況を思い浮かべたり、状況を表すイラストを選択するワークを可能な限り行っていく。

ライティングに関しては、文と文のつながりを生み出すために、接続詞などを使ってアイデアをつなげるワークを可能な限り行っていく。

スピーキングに関しては、意見を述べる場合は、理由や具体例をつけ足すなど、内容を豊かにする練習を可能な限り。

特に、スピーキングは前年度を下回ったので、C-NETさらに活用して、会話力を強化していきたい。他の技能についても、多様な活動を行うことで、英語をアウトプットする力をつけていきたい。

運動能力調査

<男子>

50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げについては、大阪市の平均値を上回っている。

握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン、反復横跳びについては、大阪市の平均値を下回っている。

特に、握力(筋力)については大阪市平均、全国平均を大きく下回っている。男子全体の筋力の向上のため、体育の授業において補強運動等の時間をより確保するように努める。

立ち幅跳び(瞬発力)については、大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。今後も、このような体力要素の向上に継続的に努めていく。

<女子>

上体起こし、長座体前屈、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げについては、大阪市の平均値を上回っている。握力、20mシャトルラン、反復横跳びについては、大阪市の平均値を下回っている。

特に、握力(筋力)については大阪市平均、全国平均を大きく下回っている。女子全体の筋力の向上のため、体育の授業において補強運動等の時間をより確保するように努める。

ハンドボール投げ(巧緻性、瞬発力)や50m走(スピード)については、大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。今後も、このような体力要素の向上に継続的に努めていく。